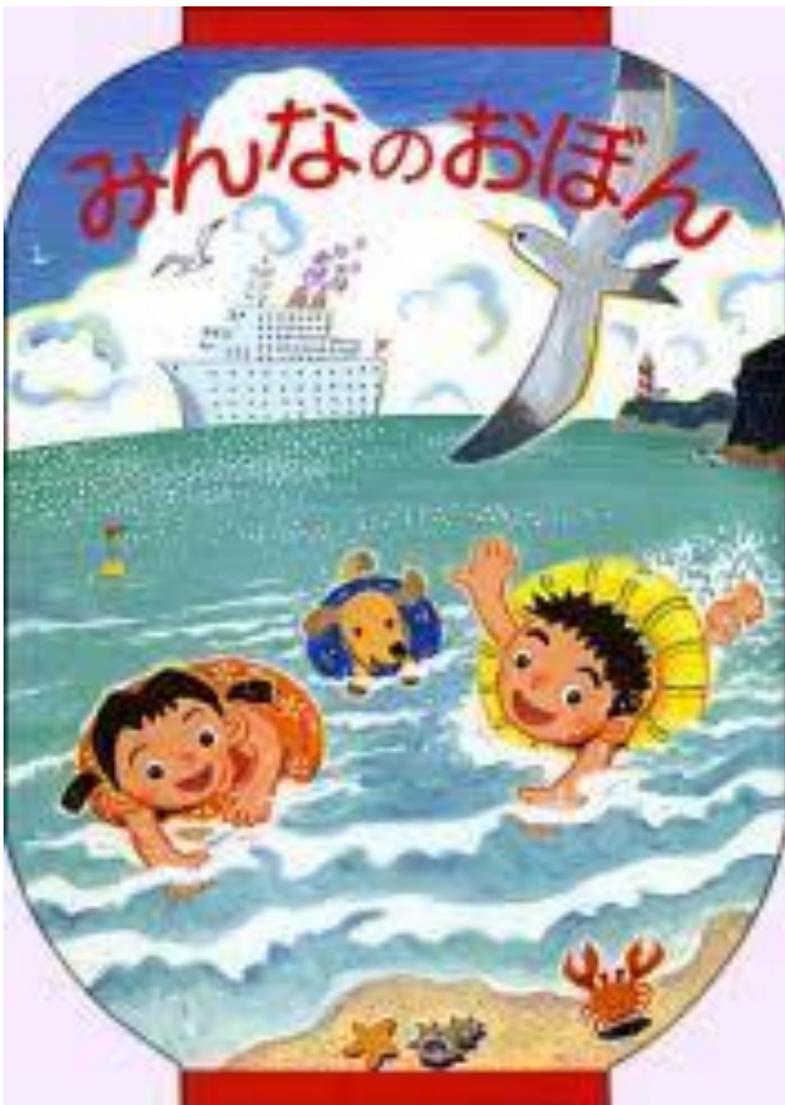


お盆の由来

正式には「盂蘭盆うらぼん」といい、お釈迦さまの弟子である目連もくれん尊者そんじゃの亡き母が餓鬼道に落ちている姿を譬えたものです。目連尊者はその母を救おうとして、最後に行き着いたのがお釈迦さまの教えでした。その教えは、多くの仲間とともに真実の教えを聞くことであり、それで母を救い出すことができたという『盂蘭盆経うらぼんきょう』の物語です。



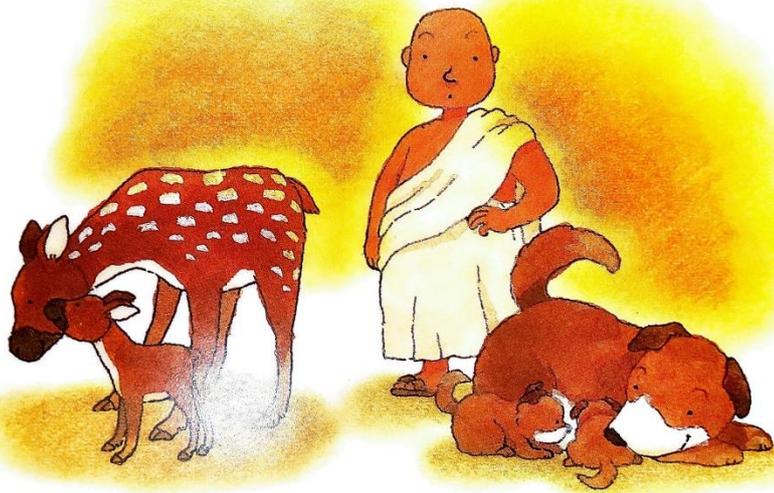
すずき出版から発行されている

『みんなのおぼん』

に、お盆の由来とされている目連尊者のお話がわかりやすく掲載されていますのでご紹介します。



おぼんの いわれ
もくれんさんの おはなし



① むかし、もくれんさんという おぼんさんがいました。もくれんさんは あるひ、してしまった おかあさんのことを おもいだしました。

② もくれんさんは、ふしぎなちからで おかあさんを さがしました。すると、おかあさんは がきぶつというところへ、ほねとかわだけになって くるしていました。



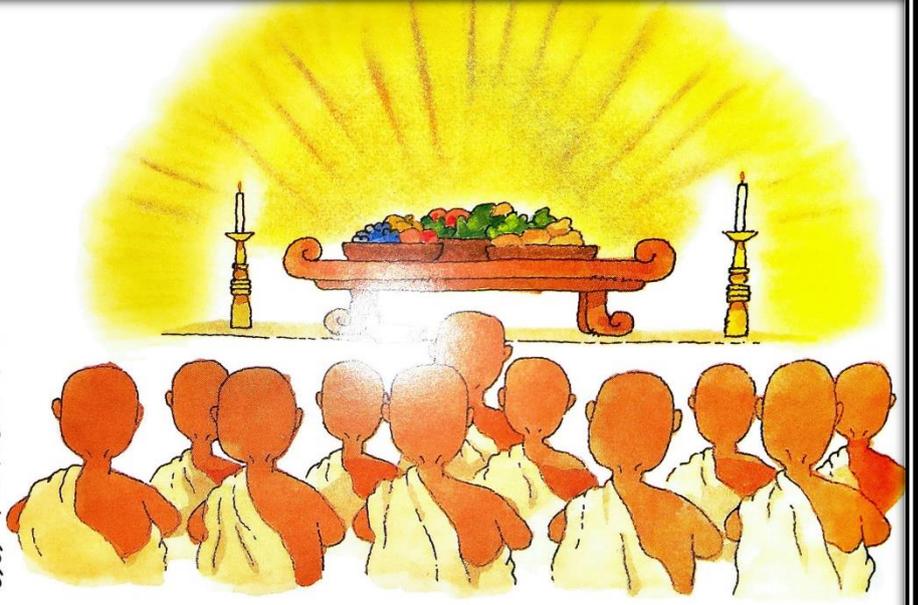
③ もくれんさんは すべに、おぼんをあげようとしましたが、おかあさんが たべようとすると、ひに なってしまいました。



④ もくれんさんは、なんとかして、おかあさんを たすけようと、おしゃかさまに たずねました。



⑤ おしゃかさまは、「フがつ15にちにおおぜいの おぼうさんがここに あつまります。このそつを さしあげて いっしょにいのつてもらいなさい」と おっしゃいました。



⑥ もくれんさんが おしゃかさまの おしえのとおりすると、おかあさんは がきどうから すくわれて、しあわせな せかいへ うまれかわることが できました。



浄土真宗のお盆とは

この『盂蘭盆経』の物語を思う時、浄土真宗では改めて亡き人を偲びながら“いのち”の事実とその“いのち”にかけられた深い願いに耳を傾けることを大切にしてきました。お寺やご家庭のお内仏（お仏壇）、お墓へのお参りを通して、今生きているこの私の“いのち”や人生を振り返る時間として過ごすのが浄土真宗のお盆の迎え方です。



亡き方は阿弥陀さまに救われ、阿弥陀さまとともに大いなる慈悲の心で、迷いの中で苦しむ私たちを見守り、様々なご縁を通して私たちが仏前に誘って下さっています。亡き方に感謝し、阿弥陀さまのみ教えを喜びお念仏申す身になってほしいという亡き方たちの願いを聞いていただきたいです。



盆提灯、迎え火・送り火、精霊馬等は、亡くなられた方が迷わないように家に帰って来られるよう導くものとされています。浄土真宗では、亡き方は常にわたしのそばでわたしにはたらきかけ、お念仏とともに歩いて下さいます。お盆だけ帰って来るわけではありません。そのため、用意する必要がないのです。

